

## 自分の想いを大切にする姿

これは、2月28日（月）3時間目の1年生、道徳での一場面です。

1年生6人という人数で、意見の広がり・深まり、それ以前に意見の繋がりを生み出していくことは、とても難しいことです。

しかし、この授業では、6人という少人数さを感じさせない意見の繋がりがあり、広がり・深まりがありました。

題材名は『みんなが つかう ばしょだから』、あらすじは以下の通りです。題材名の通り、みんなが使う場所では約束や決まりを守って、みんなが気持ちよく安心して過ごせるようにするための判断力を育むことをねらいとしています。

休み時間、ボール遊びを始めたしんじ君とこうちゃん。休み時間にボールを蹴ってはいけないというきまりがあると話すめぐみさんの注意も聞かずにボールを蹴り、近くにいた6年生に当ててしまう。慌てるしんじ君に6年生は「だいじょうぶだよ。だけど、校庭にはたくさんの方がいるんだよ。」と話した。それを聞いたしんじ君は、さっきのめぐみさんの言葉を思い出した。

私が見たのは、「ようし、もう いっぱつだ。いくぞ。」と言ってしんじ君がもう一度ボールを蹴った場面です。人の心の弱さ・身勝手さについて考えることは、ともすると、言いにくさが先行することがあります。

しかし、参観場面では、冒頭の通り、発言が途切れることなく繋がっていききました。一回だけの発言に限らず、複数回に及んでいること、発言の仕方が定着していることに感心しました。

「ちょっとくらいなら破ってもいい。」「楽しいから、ちょっとくらいはいい。」「やっちゃんえ!」「ボール遊びがしたい。」「ボールを蹴りたい。」「我慢できない。」と自分が楽しいと思うこと、自分がやりたいと思うことのちょっとくらいならという甘さ、そして自分の欲求に負けてしまった決断が、複数回の発言から浮き彫りになってきました。

自分の想いを大切に、何度も発言しようとする姿、発言の機会を大切に言い直しまでする姿が見られて嬉しかったです。

特に、「もう一回、言い直します。」と言って、自分の考えを最後まで言い切る姿には、こだわり・前向きさが伝わってきました。

自分の考えを大切にできるということは、仲間の意見も大切にすることができます。仲間の意見を聞いて、改めて挙手する姿もありました。

6人という少人数ですが、話す力、そして聞く力の高まりを感じる一場面でした。